

学 会 記 事

第12回（1991年）研究報告全国大会

第12回研究報告大会は1991年11月9日～10日の両日、同志社大学新町キャンパスで開催された。共通論題「EC統合の深化と拡大」という、目下最大の関心を集めている分野ということもあって、報告、フロアからの質疑ともに、従来になく熱気のこもった雰囲気のなかで続けられた。

今年度は議事運営の都合を考えて、全体討論を省略し、これに代えてそれぞれの報告の終了ごとに質疑を行うことになった。

第一日目の日程の終了後、主催校同志社大学の好意により、京都私学会館で盛大な懇親会が開かれ、ここでも出席会員のさまざまな歓談が行われた。

今回の大会プログラムは次の通りであった。

[プログラム]

第1日（11月9日）

午前10時30分 理事会

午後の部（13時～16時30分）

司会 中原喜一郎（東海大学）

(1) 欧州統合の深化と国際環境

— 共通漁業政策の成立を例に—

若林 弘（上智大学）

(2) EC 統合の深化と産業競争力

— 先端技術政策を検証する—

出水 宏一（東京電機大学）

(3) 補完性原理（The Principle of Subsidiarity）:

分権主義か集権主義原理か

澤田 昭夫（日本大学）

総 会（16時40分～17時）

懇親会（17時10分～19時30分）

京都私学会館

第2日（11月10日）

午前の部（10時～12時）

司会者 小原 喜雄（神戸大学）

(1) C法の形成における EC 裁判所の役割

—EC法と国内法の相剋—

吉野正三郎（東海大学）

(2) ECにおける保険事業規制の動向

渡部 記安（日本生命）

昼食休憩（12時～13時） この間理事会

総 会（13時～13時15分）

午後の部（13時15分～15時15分）

司会者 奥村 茂次（奈良産業大学）

(1) ECのエネルギー政策の新展開

—天然ガス・電気部門に見る EEC 条約

10条Aの適用事例—

児玉 昌己

（純心女子短期大学）

(2) 共通農業政策（CAP）の現状と課題

—環境対策との関連を中心として—

磯野喜美子

（大阪薫英女子短期大学）